

さらに新しいカナモトへ

40th
ANNIVERSARY

kanamoto ■ カナモトエグザミネー examiner

Report to the Shareholders

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ

contents

- 2** News Headline
小口分散手形債権の流動化を決定ほか
- 4** 3rd Quarterly Report 2004
第40期第3四半期業績の概況
- 6** Inside Report
カナモトグループのニューカマー“株式会社カンキ”
- 8** User's Report
ソーラーハウスご利用 田中産業株式会社様
- 9** Line up
取扱商品のご紹介
- 10** Shareholders' Q & A
株主様からの質問に答えるQ & Aコーナー

vol.29

第40期第3四半期号



地場レンタル会社とのコラボで敦賀発電所建設工事プロジェクトに対応

当社は、福井県敦賀市の日本原子力発電株式会社の敦賀発電所3・4号機建設工事に対応するため、下記のとおり、地場建機レンタル会社と提携して、同プロジェクト向け建設機械レンタル事業を展開することで、つい先頃、福井県敦賀市に本社を置く建機レンタル会社と合意いたしました。

これは、上田建機株式会社、北日本リース、有限会社タマムラの3社様の共同出資により、本年9月1日に設立された新会社「敦賀建機リース株式会社(上田勝康代表取締役社長、敦賀市昭和町2丁目18番3号、資本金1,000万円、発行済株式総数：1,000株)」が必要とする建設機械

と人員を、当社が全面的にバックアップするものです。敦賀発電所3・4号機建設工事は総工費7,700億円、2004年から2015年までの長期間に渡る大型プロジェクトです。地場企業の地の利とネームバリュー、そして、広域企業である当社の資産調達力と羽田沖や関西空港などで培ってきた護岸・埋立・地盤改良のノウハウ、これら地場業者と広域業者の両者の持つ特性をコラボレーションしつつ相乗効果を目論むもので、相応の成果が期待されます。

供給する建機台数や人員数などにつきましては、詳細が決まり次第、小誌でもご紹介したいと思います。

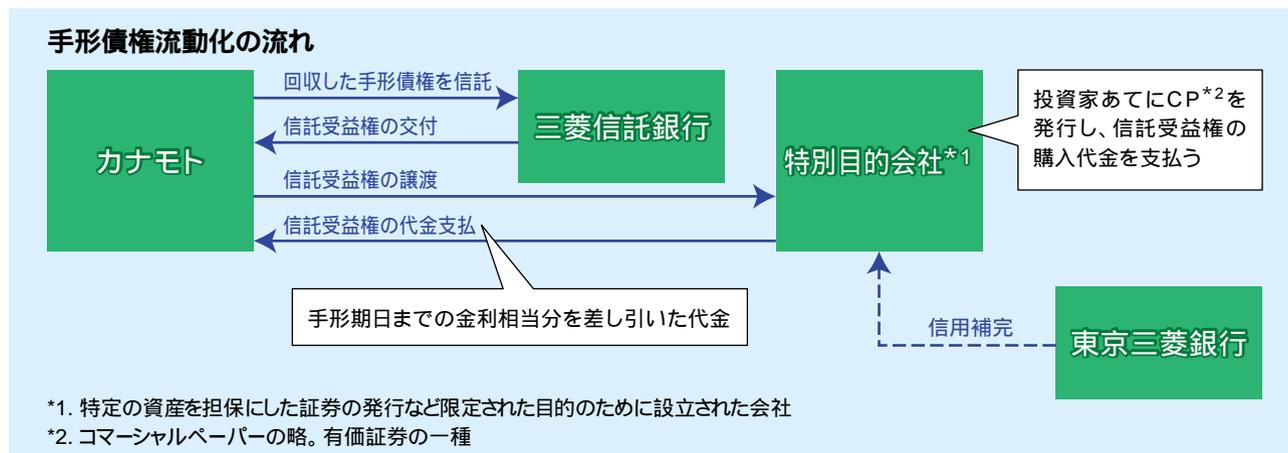
小口分散手形債権の流動化を決議しました

当社は、MTFGグループの東京三菱銀行、三菱信託銀行と総枠120億円の手形債権を流動化することを決議、この11月からオペレーションすることといたしました。

建機レンタル業は他業種と比較し、手形債権が小口分散されておりますが、これら不特定多数の弊社宛手形債権を流動化することで現金化が早まり、資金効率が改善します。また、貸借対照表の資産項目が減少しますので、自己資本比率等の財務指標が向上するほか、流動化により調達した資金を借入金返済に充当することで、金融

収支の改善に寄与することとなります。

業界の特殊性から債権が小口分散されるため、個々の債権にリスク判断を要するなど、困難と思われた債権流動化ですが、前述の2行と検討を重ね、すべての手形債権に対し信託受益権を設定することにより、今回の流動化が可能となりました。なお、手形債権の流動化は、広域建機レンタル業者では当社が初の導入であります。当社は今後もこのような手法を積極的に導入し、一層の財務体質の改善・強化に努めてまいります。



札幌で個人投資家向け会社説明会を開催しました

9月7日、野村証券札幌支店で当社の会社説明会を開催いたしました。これまで東京では積極的なIR活動を展開してまいりましたが、実は札幌で個人投資家向け説明会を開催したのは、今回が初めてだったんです。地元の皆様、長らくお待たせして申し訳ございません。説明会では、はじめに当社社長・金本寛中が「レンタルビジネスの仕組み」について説明。「建設会社様のあらゆるリスクを負うのが、われわれの使命。競合他社にはできない高付加価値を追求することで差別化

を図りたい」と結びました。

ご来場の方々から寄せられたご質問には、北京五輪・上海万博など国内のビッグプロジェクトを控えた中国進出に関するものもあり、中国での事業展開への注目の高さを改めて実感いたしました。

ご来場の皆様ならびに読者の皆様からいただいたご質問については、小誌10ページのQ & Aコーナーでお答えしています。

第3四半期(2004〔平成16〕年5月1日～7月31日まで)の業績概況を発表しました

当社第40期も、残すところあとわずかとなりました。当初計画を達成すべく、全国各地でラストスパートをかけている最中です。

さて、9月に既報の第3四半期までの連結業績概況は、後段の4～5ページに掲載のとおりであります。四半期決算

は今期からスタートしたばかりですので、数値発表は連結売上高の開示だけに留まっておりますが、店舗のスクラップ&ビルドや、新たな段階に入りつつあるアライアンスグループなどについても記述しておりますので、是非ご覧くださいね。

株式会社カンキを子会社化いたしました

既報のとおり、当社は株式会社カンキ(本社：兵庫県神戸市)の第三者割当増資を引き受け、連結子会社といたしました。これにより当社の連結子会社は、1社増えて5社となっております。同社の主力事業は建機レンタルで、

当社とは10数年に渡り友好関係を築いてまいりました。今後とも、同社との結束を一層強めることで、兵庫県における営業基盤を確固としたものにしてまいります。詳細は小誌6～7ページに掲載してあります。

とってもいいモノ・読者プレゼント

同封のアンケートハガキをご返送いただいた方の中から抽選で合計20名様に、小誌でご紹介した取扱製品のメーカー各社から頂戴したノベルティグッズを差し上げます。今回は株式会社スチール様(<http://www.stihl.co.jp>)から、電池で動く本物と見紛うチェーンソーとオリジナルキーホルダーを、株式会社タダノ様(<http://www.tadano.co.jp/index.html>)から高所作業車のミニチュアをご提供いただきました。

応募の締め切りは11月10日(当日消印有効)ですので、どしどしご応募ください。なお、当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



実はチェーンソーがバカでかいんです。それ以外は絶妙な大きさだったので作業台にもスチールマンを並べてみました。

第40期第3四半期業績の概況 [2003(平成15)年11月1日から2004(平成16)年7月31日まで]

売上高(連結)成績

	売上高 (百万円)	前年比 (%)
第40期第3四半期	44,478	()
第39期第3四半期		()
(参考)第39期通期	63,686	

(注)売上高は、当該四半期までの累計値であります。平成15年10月期は四半期業績の開示を行っておりません。よって、前年同四半期増減率を示すパーセント表示の表記は省略しております。

[売上高に関する説明]

経営環境

当第3四半期の日本経済は、一部の企業・地域の景況感があたかも日本全体の景況感であるがごとく景気回復イメージが先行しておりましたが、企業業績の回復と雇用の状況の乖離はいまだ著しく、企業の大小、首都圏と地方の景況感は温度差のある状況が続きました。特に建設関連事業については、民間需要が少なく公共事業に頼るところの多い地方で引き続き厳しさが目立ちました。

主力事業の動向

新長期経営計画『メタモルフォーゼ』に基づき、建設機械レンタルでは公害対策機のラインナップなど他社にはない最新鋭機の品揃えを最大の武器に、収益性の高い機種比率を高めつつ、建築・メンテナンス工事向けレンタルなどの新規市場開拓を強化しました。また、仮設足場や保安用品、建設現場に付帯する什器備品など、グループ全体を通じてきめ細かな営業に注力いたしました。また、一部地域では、地場優良同業者とのアライアンス提携による競合回避をはかりつつ、収益確保に努めました。

第40期の連結業績予想 [2004(平成16)年10月期]

	予想売上高 (百万円)	予想営業利益 (百万円)	予想経常利益 (百万円)	予想当期純利益 (百万円)	1株あたり予想 当期純利益
通 期	60,780	1,850	1,700	950	31円81銭
(参考)個別通期	58,730	1,820	1,740	1,020	34円15銭

その結果、当該四半期は公共事業の発注の少ない端境期ではあるものの、首都圏、ならびに東海地区を含む近畿中部地区では、民間需要に食い込み堅調に推移しました。一方、公共事業の減少が続く地方、東北地区と北海道地区においては、災害復旧工事以外の工事は少なく、苦戦いたしました。

特記すべき事業展開と、拠点新設閉鎖の状況

かねてから戦略の一環として構築してきたアライアンスが結実し、次の段階に移行しつつあります。当第3四半期の期間中には、株式会社金谷リース(本社：千葉県浦安市)の高所作業用機械レンタル事業を譲受け(6月1日)、首都圏高所営業所として営業を開始しました。また、北海道の道東地区で密接的な協力関係にあった中野モータース株式会社(本社：北海道紋別郡生田原町)の建機レンタル事業を当社が継承(7月2日)し、遠軽営業所として事業展開を行っております。

なお、直近においては、上記に加え、兵庫県下トップの建機レンタル業者である株式会社カンキ(本社：兵庫県神戸市須磨区)を子会社化する予定にあります。上記と合わせ、これらにつきましては、当社



東京都江東区の同一敷地内に開設した首都圏高所営業所・新木場営業所('04年6月開設)



約9,000m²の広大な敷地を誇る遠軽営業所('04年7月開設)



'04年9月に当社連結子会社となった株式会社カンキ本社

平成16(2004)年10月期の業績に与える影響は軽微であります。次年度以降には当社のレンタル事業拡大に寄与するものであります。

そのほか、首都圏の建機基地として総敷地面積約5,627m²の新木場営業所(敷地には首都圏高所営業所を含む)を新設、また、黒部出張所(富山県黒部市)と戸田営業所(埼玉県戸田市)の2カ所を閉鎖しました。これで平成16(2004)年10月期の新設は5カ所、閉鎖は7カ所となりました。このほか、コマツとのアライアンスの一環として、北海道沙流郡門別町に日高災害復旧の受注対策のため、共同運営で門別機材センターを立ち上げております。

以上の結果、当社平成16(2004)年10月期第3四半期終了時点での連結売上高は、444億78百万円でした。

地区別拠点数(7月末時点、カンキ分8拠点を含む)

	カナモト	アライアンスグループ
北海道地区	56	17
東北地区	39	1
関東信越地区	31	4
近畿中部地区	13	8
九州沖縄地区	-	39
小計	139	69
グループ合計	208	

〈インサイドレポート〉

カナモトグループのニューカマー 株式会社カンキ

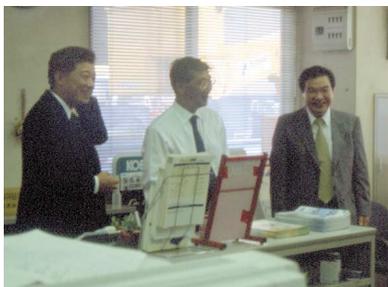


カンキ社に新たに導入された最新鋭機群

総合レンタルの強みを生かし、県内トップを堅持

株式会社カンキは1962年の設立以来、40年以上も建機レンタル業で活躍してきた県内NO.1のレンタル会社です。カンキ社の最大の強みは、大型の建設機械・高所作業車から小物機械に至る幅広い商品ラインナップ、高度な専門知識をもつ優秀な人材、長年培ってきた独自のノウハウにあります。競合他社の追随を許さない総合力で、強固な企業ブランドを確立してきました。

以前からカンキ社と当社は協力関係にありましたが、確固たる信頼関係を築ききっかけとなったのは、阪神淡路大震災の復興事業です。未曾有の大惨事を前に、両社のトップ会談の場で被災地復興が共通目標であることを確認。以降、当社がカンキに大量のレンタル資産を供給した経緯があります。



営業所を視察するカンキの新旧社長と金本寛中当社社長。写真左が桐月前社長、右が佐藤新社長

大震災という試練を事業パートナーとして共に乗り越えたことで、揺るぎない信頼関係を築いてきたのです。

大阪進出から10年、カナモトグループの新たな展開が念願の大阪進出を果たしたのが1994年。それから10年という節目の年に当社グループにカンキ社が新たに加わったこととなります。

現在、兵庫県内では神戸空港建設が進行している他、今後は姫路・豊岡方面でもマーケットの活性化が期待されています。信頼・実績ともに申し分ないカンキ社との連携を強化することで、当社グループの兵庫県内での営業攻勢は強化され、また兵庫県以西への事業展開など業績向上のチャンスが大きく開かれます。

カンキ社の佐藤幸夫新社長は、両社のアライアンスによる相乗効果について「株主・お取引先をはじめ、債権者の皆様のご理解をいただき、カナモトグループに参画することによって、当社も将来像を描けるようになった。待望の新型機も次々と導入され、社員も高揚している。これまで培ってきた知名度・信頼を生かす環境が整ったということだ。カナモトの目標の一つに全国展開がある



カンキの臨時全社ミーティングで抱負を述べる佐藤幸夫新社長

が、カナモトの西日本地区開拓の一助に、当社カンキがお手伝いできる点が多々あろう。自社の収益の回復もさることながら、カナモトグループの西日本地区における先鋒として、頑張っていきたい」とコメント。カナモトの最新鋭のレンタル資産と同社が長年培ってきた知名度・信頼を最大の武器に、顧客満足の向上に努めてまいります。今後の同社の活躍にご期待ください。



無事故と商売繁盛を祈念して御神酒を捧げる佐藤新社長。まさに新生カンキの船出です。

<会社概要> (2004年9月30日現在)

株式会社カンキ
 兵庫県神戸市須磨区外浜町2丁目9番19号
 代表取締役社長 佐藤幸夫
 設立●1962年6月
 営業所●8拠点
 従業員●81名
 資本金●9,900万円
 売上高●42億円(第42期 2004年5月期)

※子会社化と同時に、同社は第43期より決算期を10月期に変更いたします。そのため同期は6ヶ月の変則決算となります。

兵庫県におけるカンキとカナモトの拠点展開

加古川ステーション



本社営業所・外浜総合ステーション



東部営業所・東部総合ステーション



西部営業所・西部総合ステーション



本社



土山仮設ステーション

西神戸ステーション

垂水ステーション

明石海峡大橋

須磨海岸

淡路島

カナモト
神戸営業所

六甲アイランド

三宮

元町

神戸新空港
建設予定地

前号でご紹介いたしましたソーラーハウス。第1号棟に続き、第2号棟も導入いただいた田中産業株式会社様の購買部坂野政行室長に、ソーラーハウスの採用についてお聞きました。

ソーラーハウス利用など環境への配慮が、企業評価を高める

[インタビュー] 田中産業株式会社 購買部室長 坂野政行様



田中産業株式会社
新潟県上越市に本社を置き、総合建設業、骨材生産販売、一般貨物自動車運送事業の三事業で県内有数の企業規模を誇る。左の写真は本社。写真の左奥に小さく見えるが、ホントは世界最大のブルドーザー、米国キャタピラー社製D-11RとアーティキュレートダンプD-400E。
(<http://tanakaind.co.jp/www/>)

貴社ではISO14001を取得するなど、今回のソーラーハウスのご採用に限らず、環境問題にも積極的に取り組まれていらっしゃいますね。

坂野氏 一人一人の啓蒙によってできる範囲の省エネ、環境対策はやってきましたしISOも取得しています。実はここ上越では、上越市そのものが前市長の下、全国の自治体に先駆けてISO14000を取得しているんです。当社の向かいに建つ市民プラザも、屋上はソーラー発電パネルだらけなんです。つまり、官民一体で環境に取り組んでいまして、将来的には当社ビルもソーラーや燃料電池などでまかないたいと考えています。

ソーラーハウスはまだ、コスト高になるはずですが？

坂野氏 新潟県は環境問題を重要視していますので、環境への配慮も企業評価の一項目になっています。ですから、あらゆる場面で「環境」を考慮し対応するということは、企業にとって必要不可欠な事業活動の一つになるんですね。もちろん、電気がきていない山間部や発電機など多用できない公園内の現場など、実質的な面でも利用価値は大きいですね。

より理想形に近づくために必要な改良点は何でしょう？

坂野氏 他の電源も併用できるハイブリッド方式になっているのは使い勝手がいいですね。強いていえば、運送・移動を考えると太陽電池の部分、屋根の形状ですね、これをもう工夫してコンパクトに仕上げていただきたいのと、コスト的にも見合うようにしていただきたいですね。

本日はありがとうございました。



お話を伺った坂野室長(写真上)。写真下はソーラーハウス内に設置された計測器部分。遠隔操作も可能。

取扱商品のご紹介

今回の取り扱い製品紹介コーナーでは、ソーラーハウスに続くソーラー商品「エコトイレ」、全国各地で大活躍の様々な「小物機械類」、そして橋梁の点検で活躍する「橋梁点検車」をご紹介します。

エコトイレ

ソーラーパワーを活用した商品はハウスだけじゃなかったんです。ソーラー商品第2弾はエコトイレです。写真は先日、北海道深川市のパークゴルフ場に納品したものです。ソーラーパネルのいいところは、なんとと言っても太陽光で電力をまかなえるところ。近くに電源がなくても気軽に設置できる優れモノです。しかも、埋設型の便槽には汚物をバクテリアで分解するバイオ溶剤を使用。エコロジーな簡易水洗でありながら、無臭で快適な空間も同時に実現しました。もちろん、電気は屋根に設置されたソーラーパネルで確保できるから、新たに電線を引く必要はありません。これまでお取引する機会の少なかった農業・漁業・林業など異業種への需要拡大が期待される注目商品です。お問い合わせは、(株)カナテック(TEL.011-271-5121)まで。



小物機械類

建設機械というと、どうしても縦横無尽に動き回る大型機械が目立ちますが、当社レンタルラインナップには、様々な小物機械や電動工具などのハンドツールもあるんです。

一口にハンドツールといっても、その種類は実にさまざまで、皆さんご存知のチェーンソーや草払い機、鉄筋を加工する鉄筋加工機、コンクリート製品を切断するコンクリートカッターのほか、電動ドリルや電動レンチなどの各種電動

工具、送風機、地面の締め固めに使う振動ランマーや振動プレートなど、ありとあらゆるものがズラリ。中でもチェーンソーは台風18号で倒木の山となった札幌を東奔西走の大活躍。「山椒は小粒でもピリリと辛い」の喩えじゃありませんが、当社の収益に、そして建設現場になくてはならない存在です。

橋梁点検車

陸橋や交通量が多い幹線道路の上を走っている高架道路など、その橋桁の側面や下側の点検・修理は一体全体どうやっているのだろうと、不思議に思われたことはありませんか？

この橋梁点検車は読んで字のごとく、まさに手の届かなかった橋の裏側に迫るために開発された作業車なんです。この橋梁点検車があれば、高い防音壁がある橋梁や高架道路でも、その壁をひよいと乗り越えて、場所を移動しながらの保守点検や補修作業を容易に行うことが可能です。

当社でも首都圏を中心に、全国で橋梁や高架道路の保守点検、補修作業向けにレンタルしています。



株主様からの質問に答えるQ & Aコーナー

株主の皆様からカナモトに寄せられたご質問をご紹介します、誌上でお答えします。

Q 中国では今すごい開発ブームだと報告されています。海外戦略はどのように考えていますか？

A ご指摘のとおり、直近に迫った北京オリンピックや上海万博に加え、西部大開発等々、中国の建設需要は旺盛であります。あまりの開発熱の高まりに金融引締め政策が実施されましたものの、大変大きな国ですから、長期的な需要が期待されます。現在も当社の中古建機の主要な売却先ですし、今後は当社の主力の建機レンタルでの進出も視野に入れていきたい注目すべき地域です。

しかしながら、中国はWTOに加盟したものの、現地法人設立や通貨制度などに外国資本には不利な規制もあります。他方、これから開発が必要とされる国々には政情不安があるなど、設備投資額が大きくなるレンタルでこれらの国々に進出するには細心の安全策を講じる必要があります。ご質問のあった中国では、当社は最新情報を収集できる体制作りを行っており、今後の進出の可能性を探っているところです。

Q 会社見学を計画していただけますか？

A 当社はモノを作るメーカーとは異なり、株主の皆様が目を見張るような目新しいものはない...と常々思ってきました。ご要望をいただいて改めて考えてみますと、建設工事に必要な機械・機材を複合的にご覧になれる会社といえば、当社しかないことに気づきました。いやはや、灯台下暗しですね。

最新鋭の公害対策機種群や各営業拠点での整備状況、資産がオンラインシステムで管理されている様子など、小誌エグゼクティブの駄文をご覧いただくよりも百聞は一見にしかず、です。例えば株主総会終了後の本社内のミニツアー、例えば各地の大型拠点で機械・機材を実際に操作いただく体験ツアーなどが企画できそうです。皆様のご要望をお聞きしつつ、実現に向けて企画を進めたいと思います。

Q 先日、レンタル機械の稼働率は高まっていると競合他社がテレビで話していたが、カナモトの説明ではそうでもない様子。どういうことなのでしょう？

A 多分、ご覧になられた稼働率とは所謂、出荷率や貸出率(貸出台数÷保有台数)といわれるものと推察いたします。この率でしたら、当社でも90%超のものも沢山ありますが、分母の保有台数だけを減らせば高い比率になりますから、あまり意味がありませんね。本来、稼働率とは貸出日数または時間を用いて導き出すのが一般的で、当社では、その一般的な稼働率にレンタル単価や購入額、掛かるコストなどを使って、より具体的で実質的な稼働率を導き出しています。ただ、これも収益を押し量るのには不適切で、設備投資が旺盛なレンタルの場合は、投下資本回収率(ROI)がもっとも重要な指標となりましょう。

当社事業や経営、財務に関するご質問がございましたら小誌同封のハガキで、
または<http://www.kanamoto.ne.jp/>の「Contact Us」から、お気軽にお問い合わせください。

株式・会社情報

株価チャート(週足)



役員一覧(2004年9月30日現在)

取締役

印の取締役は、執行役員を兼任しております。

代表取締役社長	金本 寛中
代表取締役副社長 管理本部管掌	鷺田 秀光
取締役 ((株) カナキ代表取締役社長)	佐藤 幸夫
取締役執行役員 総務部長 債権管理部・監査室管掌	金本 栄中
取締役執行役員 経理部長	卯辰 伸人
取締役執行役員 レンタル事業部長 近畿中部地区担当部長	金本 哲男
取締役執行役員 経営企画部長・秘書室長	成田 仁志
取締役	薩摩幸治郎
取締役	雑賀 忠夫
常勤監査役	奥村 敏三
常勤監査役	澤田 紳六
監査役	大西 清
監査役	橋本 昭夫

執行役員

営業統括本部付部長 鉄鋼事業部管掌	野宮 秀樹
レンタル事業部副事業部長 特販事業部長・品質保証室長	平田 政一
事業開発部長	北方 敬一
情報システム部長	熊谷 浩
レンタル事業部東北地区担当部長	金本 龍男
債権管理部 監査室長・法務室長	麻野 裕一

株価および売買高(東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	高値	安値	終値	出来高
2003年 9月	550	494	540	582
10月	555	518	527	898
11月	527	491	496	368
12月	509	438	458	666
2004年 1月	488	460	478	365
2月	495	475	489	312
3月	564	491	564	928
4月	600	531	544	1,208
5月	562	493	550	585
6月	580	527	570	619
7月	584	556	580	476
8月	590	572	583	412
9月	585	567	572	625

会社概要(2004年9月30日現在)

商号	株式会社 カナモト (英文 kanamoto co.,ltd.)
設立	1964年10月28日
資本金	85億9,673万円(払込済資本金)
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 札幌証券取引所
営業拠点	139カ所
本社	札幌市中央区大通東3丁目1番地19
発行株数	30,253千株(発行済株式総数)
決算期	毎年10月31日(年1回)
証券コード	9678
従業員数	1,110名(役員・嘱託・臨時雇員を除く)

編集後記

今年ほど日本人の活躍が目立った1年はなかったように思います。4年間の精進を一気に開花させたアテネ。パラリンピック・水泳の成田真由美選手が奪取したメダル数は8つ。ただただ脱帽です。そして、シーズンを通じてプロとは何たるかを標榜したイチロー。84年振りの新記録です。みんな凄いや。心底感動しました。凄いやといえば大きな爪痕を各地に残した台風も半端じゃなかった。北海道にまで到達した18号は風速50m超の暴風で、大人二人掛りでも抱えきれないほどの巨木や街路樹を薙ぎ倒していきました。枝を伸ばせば切り落とされ、根も張れない狭い土壌に排気ガスと、泰然自若と目に映る木々達も病んでいたんですね。台風で餌を失った月の輪熊もまた犠牲者でしょう。取り囲まれ、小さな体でおどおどした視線の彼等は駆除の一言で命を絶たれます。今日の天災は人間の暴虐さの積み重ねの筈なのに、何故、その代償を彼等が払わされねばならないのだと理不尽を感じます。暴虐で思い出すのが球団オーナー某氏。なんて書いたら怒られそうですが、経営もさることながら「ファンありき」を忘れてはいけませんよ。不景気の北海道に本拠地を移した日ハムは、ヒルマン監督に選手、そして球団もファンサービスに努め、新庄選手効果もあってか、巨人鼻根の道産子をすっかり改宗させてしまったようです。お客様の喜ぶ顔を忘れては商売繁盛なんて有り得ません。我々も喜ばれることをちゃんと実践して、ニコニコ笑顔のカナモトファンをもっと増やさねば。(高山)



本誌は、再生紙と大豆油インキを使用しております。



株式会社 **カナモト**

(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel : (011) 209-1600(大代表)

<http://www.kanamoto.co.jp>

Investor Information 株主メモ

決算日	毎年 10月 31日 (年1回)	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (〒100-8212) 三菱信託銀行株式会社証券代行部
株主総会	毎年 1月中	郵便物送付先 および電話照会先	東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 (〒171-8508) 三菱信託銀行株式会社証券代行部 電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月 31日	同 取 次 所	三菱信託銀行株式会社全国各支店
利益配当金受領株主確定日	毎年 10月 31日		
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月 30日		
公告掲載新聞	日本経済新聞		
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (〒100-8212) 三菱信託銀行株式会社		